

標 題 : Mediterranean diet has no effect on markers of inflammation and metabolic risk factors in patients with coronary artery disease
地中海食事は炎症のマーカーおよび代謝の危険因子に対して影響をもたない

著 者 : A. Michalsen, et al. (ドイツ デュースブルク・エッセン大学
Kliniken Essen-Mitte 内科)

掲 載 誌 : Eur. J. Clin. Nutr. 60: 478-485 (2006)

要 旨 :

目 的 : 疫学研究およびメタボリックシンドロームの患者における最近の試験で、地中海食事は炎症マーカーおよび代謝危険因子の値の低下と関連している。最近の内科療法の進歩を考えると、この有効性が冠動脈疾患(CAD)の患者にも存在するかは明らかでない。そこで、炎症のマーカーおよび代謝の危険因子に対する地中海食事は影響を治療した冠動脈疾患の患者で、我々は研究した。

計 画 : ランダム、対照比較試験。

被 験 者 : 確認されて治療した (80%はスタチン) 合計 101 人の冠動脈疾患の患者 (59.4±8.6 歳、女性が 23%)。

介 入 : 参加者を、1 年間に 100 時間教育プログラムの地中海食事群 (MG ; n=48) または文書アドバイスだけの群 (AG ; n=53) に割当てた。

介入の前後に我々は、血清の高感度 C-反応性タンパク、フィブリノーゲン、空腹時インスリン、ホモシステイン、血清植物ステロールおよび血漿脂肪酸を測定した。

結 果 : 地中海食事プログラムは魚、果物/野菜の摂取を高め、適度だがキャノーラ/オリーブ油の摂取も高めて、地中海食事群で長鎖 n-3 系多価不飽和脂肪酸の血漿濃度を高めた。

高感度 C-反応性タンパクの中央値およびフィブリノーゲン、ホモシステイン、空腹時インスリン、トリグリセリド、および血清コレステロールの平均値は、両方の群で変化しなかった。

結 論 : 冠動脈疾患を内科的治療した患者による地中海食事は、炎症のマーカーおよび代謝の危険因子に対して影響をもたない。

資金援助 : ドイツ、エッセン、Alfried Krupp 財団

キーワード : 冠動脈疾患、地中海食事、n-3 系脂肪酸、C-反応性タンパク、心臓血管系リスク、炎症
